

令和6年度 大分っ子『未来創造プロジェクト』

目的

地域・社会や産業界の方々が生徒が連携し、地域のよさを生かした「PR活動、ものづくり、商品開発等」といった行動を伴った探究的・協働的な学習を行う中で、生徒が主体的に自分の役割や将来について考えたり、地域や社会に貢献したりしようとする態度を育成する。

年間計画例

探究課題の設定

- 地域の現状と課題、地域のよさや魅力、生徒の思いや願い等を基に探究課題を設定する

連携先の決定と企画

- 「PR活動、ものづくり、商品開発等」の内容を企画
- 連携先の決定と打合せ
 - ・企業 ・商工会議所 ・自治会
 - ・NPO ・高校 ・行政機関 等
- 目標の共有
- 活動の計画作成等

成果の発表・交流、振り返り

- 実践交流会での発表・交流
- 活動の振り返り
- 連携先への報告
- 振り返りを基に、次年度の取組に向けて計画

等

連携先と協働した活動

- 企画に係る情報収集（アンケート調査等）
- 試作品等の作製
- 広報・宣伝
- 完成品の配布、販売

等

実践校（6校）

①中津市立山国中学校

- 地域の活性化のため、山国支所や農業公社やまくに等と連携
- ふるさとまつりでスティック大学芋の販売や山国をPRする活動等を実施



②杵築市立山香中学校

- 地域を盛り上げるために、猪肉の処理・販売業者や饅頭屋と連携
- 猪肉を使ったオリジナル中華まんを開発、販売等を実施



③臼杵市立野津中学校

- 地域を元気づけるため、製茶会社、グリーンツーリズム等と連携
- 特産品（お茶・さつま芋）を使った饅頭等の開発、販売等を実施



④佐伯市立米水津中学校

- 地域の魅力を再発見するため、水産協同組合や南部振興局等と連携
- 水産学習を通して、特産品の干物を広めるためのレシピ作成等を実施



⑤竹田市立直入中学校

- 地域の魅力を発信するため、九州アルプス商工会等と連携
- オリジナルパンフレットを作成し、県外で配付してPR活動等を実施



⑥日田市立南部中学校

- 地域貢献のため、日田祇園山鉾振興会、昭和学園高校等と連携
- 被災地支援の募金活動、祇園祭への参加、クッキー販売等を実施



実践校と内容等

- ①地域・社会や産業界と連携
- ②地域のよさを生かした商品開発等、行動を伴った探究的・協働的な学習
- ③自らの生活や行動に生かす

令和7年2月1日(土)
別府国際コンベンションセンター
(ビーコンプラザ) 国際会議室

(1) 実践校によるステージ発表



(2) 取組や制作物等のPRタイム

ステージ発表だけでは伝えきれなかった取組の詳細や実際の制作物を各ブースに準備。オリジナル商品を販売したり、参加者に意見をもらったりするなど学校ごとにPRを行った。



(3) グループディスカッション

「**地域・社会の一員として次に私ができること、したいこと**」

学校・学年の枠をこえて、テーマに沿って意見交流を行った。



【参加した生徒・先生・保護者等の感想】

生徒

- 大分県の各地から来た生徒の発表を聞いて、やはりみんな自分の地域に対する思いがすごく熱いと思いました。真剣に考えていかないとあんなに素晴らしいものは作れないと思いました。
- 交流会では地域の人たちとのつながりというのが重要だと思いました。地域の文化、伝統的な祭りは絶やすことなく継承していきたいです。
- 今後また、地域について学んだりする活動があると思うので未来を考えてやっていきたいです。

- 人口減少・高齢化が課題となっていて、人口を増やしていくためには、積極的にお祭りに参加したり、その地域の魅力や文化を伝承して、その魅力や文化を知ってもらい観光客を増やしていきたいと思いました。
- 地域のイベントに参加すること、課題を見つけ工夫しながら解決すること、地域のよいところを発信すること、この3つが特に大切だと思いました。地域にはよい所がたくさんあると思うので、少しずつでも伝えていきたいと思いました。

保護者

- 交流できる機会を設けて頂いて嬉しいです。狭い地域で暮らしていて井の中の蛙となるのではと心配もしていましたが、新しい視野も拓け、想像豊かに創造力も高まるのではないかと思います。

- 自分の生まれ育った地域の風土が当たり前のことではなく、他とは違った特色を持つことに気付かされる発表であったと思います。その特色をいかに受け入れ、いかに発信していくか、地域貢献に携わる体験を通して自身の役割を見つけられるといいなと思いました。

先生

- 「参加させて本当によかった」この一言につきます。この機会があることで、キャリア教育について考え、子どもたちと共に地域活性化のために真剣に議論することができて良かったと思います。

- 子どもたちは有意義な時間を過ごすことができ、今回の経験を糧にして今後さらに探究的な活動を展開していくことでしょう。まさしく“未来創造”の取組であったと実感しています。今回のイベントがゴールではなく、これからも活動を未来へとつなげていくことを自覚しなければなりません。

各校取組紹介

中津市立山国中学校

山国町には、新緑や紅葉の名所があり、ホテルが飛び交う「山国町ホテルまつり」や、秋の風物詩「やまくにフェスティバル」が開催されます。しかし、地域の人口減少や高齢化が進んでいる現状を踏まえ、地域の活性化に向けた取組を進めてきました。

1年生は町内の地域の歴史と魅力を学び、2年生は職場体験学習を行い、3年生は山国町の魅力を発信しています。また、「やまくにフェスティバル」の一環である「ふるさとまつり」に参加・出店するなど、地域貢献活動に取り組んでいます。



杵築市立山香中学校

世界農業遺産に認定されている杵築市の中で、山香・大田地域は、農業が特に盛んな地域です。農業をする上で近年問題になっているのが鳥獣被害で、その対策としての害獣駆除はとても重要なものです。しかし、害獣として駆除された動物も一つの命を持つものです。私たちは、その命を有効活用できないか考えました。

そこで、ジビエを使った新たな商品を考案するプロジェクトを立ち上げました。「郷土を知り、提案し、発信しよう」というテーマのもと、地元企業の協力も得ながら進めてきた取組を報告します。



臼杵市立野津中学校

豊かな自然に恵まれている野津町は、「お茶」の栽培が盛んですが、あまり知られていないのが現状です。私たちは、お茶に関する学習や調査・体験等を通じて、耕作放棄された茶畑を維持・管理されている団体や、お茶の有機栽培に長年取り組み、地域の宝を大切に守り続ける生産者の方々の思いに感銘を受けました。

そこで、お茶の生産・販売や地域活性化に貢献している方々と連携して、野津町のお茶の魅力を発信し、消費拡大につながる取組を考え、実践しています。



佐伯市立米水津中学校

探究課題を「地域産業を未来につなげよう」と設定し、「米水津の魅力」を多くの人に知ってもらい、また、「持続可能」なものとなるよう取組んできました。2年目となる今年度は、佐伯市の主要産業「水産業」に焦点を当てた取組を行いました。

毎年行っているひじき収穫やブリの捌き方教室をはじめ、11月に行われた「豊かな海づくり大会」の取組から、米水津の水産資源の豊富さに気づくことができました。その中で、米水津の特産である干物を、若い世代に食べてもらうためにはどうすればよいか考え、発表します。



竹田市立直入中学校

直入町は農業が主要な産業ですが、世界有数の炭酸泉として有名な長湯温泉があり、観光に関する事業所も多くあります。しかし、少子高齢化の影響で人口は年々減少しています。私たちは、7月に商工会の方に紹介していただいた7つの事業所で職場体験学習を行い、直入で働く方々の郷土への思いを強く感じました。

そこで「直入の良さをもっと多くの人に知ってもらうためにはどうすればよいか。」という課題を設定し取り組んできました。今日は、私たちが作成した直入のパフレットの作成の過程と今後の取組について発表します。



日田市立南部中学校

2020年度から地域の要請をもとに取り組んできた「地域貢献プロジェクト」。毎年20回程度のボランティア活動に取り組んでいます。昨年1月に発生した能登半島地震の際には、「私たちも何か力になりたい」と考え募金活動を行いました。その活動の輪は日田市内の全ての小中学校へと広がっていきました。

この経験から、今年度は地域の要請に応じるだけでなく、自分たちで地域の課題を見つけ、企画・実行していく新たな「地域貢献プロジェクト」を年間を通して行いました。



グループディスカッション



【テーマ】

地域・社会の一員として 次に私ができること、したいこと

～地域課題の解決に向けて、地域・社会が連携して
取り組んだ探究的な学習を踏まえて～

